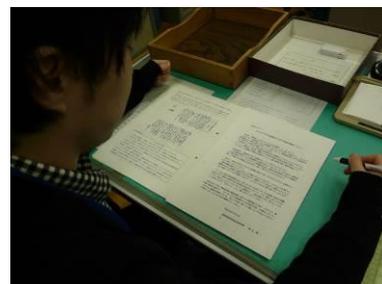


戸倉小学校 教職員 非違行為防止研修 その2

県内で発生した教職員の非違行為を受け、戸倉小学校では職員が研修を行いました。

11月2日には、わいせつ事案について処分内容と信濃毎日新聞への投稿記事を読み、児童や保護者へ与える影響の大きさについて、改めて考えました。また、10月26日に出された原山隆一教育長の「わいせつな行為根絶のための取り組みの徹底について」を読み合わせ、わいせつ行為根絶のために、「自分ごと」として取り組もうとする決意を確認しました。



その後、県内では立て続けに飲酒運転の事案が発生したため、11月16日には、飲酒運転に絞った非違行為防止研修を行いました。



事案の内容を読み合わせると共に、アルコールの与える影響について、資料を基に学習しました。校長からは、車を運転するということは、命を奪う可能性のある行為であるから運転自体を気を付けること、飲酒した翌日も十分注意すること、子ども達のためにも家族のためにも非違行為は絶対に行わないことが指導されました。

先生方が記した感想・自分が心がけること・学校として取り組むことを紹介します。

<感想>

- ・またか……。というのが率直な感想。飲酒はその人の自由だが、車を運転してはいけない。なぜ、運転してしまったのだろう。
- ・氏名の公表ということで、クラスの児童・保護者・学校の職員・家族・地域でのことを考えると、どう生きていくのか、と思う。重大な過失であると思った。友人との飲み会では、気持ちもゆるくなってしまうのか。
- ・非違行為防止研修のたびに、飲酒運転が発生してしまうくらいに思う。自分とは無関係ではない。絶対に非違行為を起こさないという意識を持って生活していきたい。
- ・むなしさを感じる。24歳の先生はこれで教員人生が終わってしまうと思うと、自分の子どもと重なってしまう。この先生は誰と飲んでいたのか。他人事とは思えない。
- ・望月小の先生は、テレビ報道も詳しく流れていて、学校やクラスの子ども達、家族への影響を考えると胸が痛い。
- ・どうしてこんなことをしてしまうのかと率直に思いました。が、お酒が入ると気持ちも大きくなり、大丈夫と思ってしまったのかもしれない。
- ・恥ずかしいことだと思う。教師という立場、家族、大切な人がいるということを忘れてしまっているのではないのでしょうか。
- ・11月に2件も、ということに衝撃を感じる。

<自分として心がけていくこと>

- ・職場での飲み会は、お互いに気をつけようとする意識が高まって生きていると思いますが、職場を離れ、友人や地域との飲酒の場面では、つつい解き放たれたような気持ちになってしまう恐れを自分自身も戒めとして感じます。
- ・平日の夜は、なるべく飲酒せず、断る習慣もつける。
- ・飲んだら乗らないことをしっかりと心に入れる。飲んで飲み終えた後の時間を把握しておき、車に乗る際には、十分な間隔があいているかを考えることが大切。
- ・お酒を飲むときは夜10時までと決め、次の日の予定のことも考えてから飲む飲まないを決めることを心がけていきたいです。
- ・運転では、スピード違反等、改めて気を引き締めたいと思います。作った標語が活かされるよう、日々心がけます。
- ・人の意識の弱さを自分のこととして考えていきたい。自分は、絶対ありえないと思わず、強い気持ちで自制していきたい。
- ・飲んだら運転しないはもちろん、飲んだ翌日の運転にも気をつけたい。
- ・飲み会のときは、一次会のみ参加して、家に帰って寝ることにする。
- ・ドリンク剤にも注意したい。
- ・車を運転するものとして、人の命を奪う危険性があるという認識、責任感は常に持っていたい。

<学校全体としてできること>

- ・飲み会は金曜日に設定した方がよい。
- ・声を掛け合い、飲酒運転を許さない。行き帰りの方法を工夫する。
- ・飲みすぎ、飲ませすぎに注意する。
- ・長く飲むようなことはせず、終わりの時間を決める。
- ・非違行為に関わる研修を定期的に行ったり、職員間のコミュニケーションをとる場を設けたりして、飲酒が心を開放することに偏らないようにする。
- ・職場の風通しをよくし、お互いに言いたいことがいえる関係が大切だと思いました。
- ・帰宅方法の確認をしていく。
- ・名札（飲む人・飲まない人）をつけて意識付けする。
- ・これからも事例から学ぶ機会を大事にしていくしかない。

11月30日には、第三者として本校PTA会長に研修にご参加いただき、職員へ保護者として、社会人としての思いをお話いただきました。

- ・戸倉小学校では、校長先生を中心によく非違行為防止研修に取り組んでいる。
- ・先生方は、目に見えないところで規制したりがまんしたりしている。
- ・社会人として、自分も気を付けている。職場などで飲み会をしたときは、周りの人が飲酒運転をしないように気を配る。千曲市でもセクハラ事例があった。そういうことがあると、人は詮索をする。今後のことなどが気ばかりになってしまう。
- ・PTA役員をやってみて、先生方の大変さが分かった。大変さもわかるが、一時の気の

迷いで非違行為を起こしてしまう人もいるのも事実。なんとかならなかったのかと思う。

- 将来先生になりたい、という子もいる。先生は生きていくうえで、重要な存在でもある。永遠にあこがれの先生でいてほしい。

お話をいただき、職員は、非違行為防止に向けて、さらに気持ちを引き締めました。



・報道などを見ても、いつも思うが、教師は未来を担う子ども達と接し、育てている一員なので、そういう立場や周囲の見方の厳しさをしっかり認識したい。「あこがれの職業」「大人になっても子ども達は覚えている」などのお話を心にとめておきたい。

・地域、社会の人からの期待を裏切らないことが大切。自覚をもって生活していきたい。一人の行為であっても、全体の行為として見られてしまうことを再認識した。

・一時の心の乱れで、一生をファイにしてしまう可能性は誰にでもある。飲酒運転ばかりでなく、スピードの出しすぎ、人身事故、子どもへの暴力、暴言など、あの時、どうしてもっと気をつけなかったのだろうか、と後悔してもしきれないだろう。毎朝、心を新たにして出発して、感情に走らないように心がけていきたい。

・保護者の立場からのお話を聞き、個人の非違行為が学校全体に与える悪影響の大きさを一層感じました。子ども達や保護者の思いを感じながら、非違行為防止に努めたいと思います。

・学校に対する地域の信頼や、子ども達にとって、私たちがいかに大きな存在であるかを改めて感じた。自己管理をしっかり行い、毎日笑顔で子ども達に会いたいと思った。

・先生はあこがれ、という言葉が強く印象に残った。不祥事が続いている、そのように見ていただけるのだから、絶対に期待を裏切ってはいけないと思った。